

# 第19回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(京都大会) 開催要綱

日本社会福祉士会が発足した東京・八王子での大会から数えて19回目の大会を、京都の地で開催いたします。会としての成人式の前年にあたる今大会です。多くの方にご参加いただき、京都の地において、熱い議論を交わしていただきたいと思います。

1・大会テーマ 「生きる力を育むために ～これからのソーシャルワークの話をしよう～」

## 2. 大会趣旨

2007年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正で、「相談援助を業とする」に「連絡調整」が加えられ、さまざまな関係者・関係職種と連携協働する社会福祉士の役割が法の定義に盛り込まれました。さらに、社会福祉士の養成カリキュラムも改正され、「地域における、総合的かつ包括的な相談援助」を展開することが求められるようになりました。これは、従来から私たちが行ってきた実践であります。今後、さらに発展させ、精緻化させていかねばならない実践でもあります。

社会福祉士の実践は児童・障害・高齢・保健医療分野から教育、更生保護、就労支援など幅広い領域に広がっています。さらに、これらの実践は地域の中で展開される必要があります。

ソーシャルワーク実践は従来から「問題の解決」「ニーズの充足」というキーワードで語られてきました。その一方で近年、「利用者主体」「エンパワメント」「ストレングス」といったキーワードが重要視される時代になってきています。これは、利用者の力を強める援助、さらには利用者の周囲のシステムに働きかける援助であるといえます。こうした援助が展開されることは、利用者の「生きる力」を育むことにつながります。利用者の生きる力を育む援助は、ソーシャルワーク実践の究極の目標なのです。

しかしながら、近年の社会状況を見ると、一人ひとりの「生きる力」を脅かす社会的排除の様相がますます色濃くなってきています。こうした状況の中では、利用者への働きかけだけでは問題状況の改善が難しく、利用者の周囲のシステムに働きかけることの重要性が増しています。利用者を取り巻く環境に働きかけることは、ソーシャルワークの特徴であり、こうした援助がもたらす意味を考え直すことは非常に重要です。

「生きる力を育む援助」「地域における総合的かつ包括的な相談援助」という新しい課題を、いにしへの都、京都で語り合ひましょう。

3. 会 期 2011年6月4日(土)～5日(日)

4. 会 場 みやこめっせ(京都市勧業館)

5. 主 催 社団法人日本社会福祉士会

第19回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会 京都大会実行委員会

6. 参加定員 1,500名

7. 参加資格 (1) 日本社会福祉士会会員

(2) 日本社会福祉士会会員以外の社会福祉士

(3) 本大会への参加希望者

8. 参加費 日本社会福祉士会会員 9,000円 ※入会手続き中の方は、会員扱いとなります。  
 一般 10,000円 ※1日だけの参加も左記金額となります。  
 学生 4,000円 入金後の返金はいたしません。
9. 懇親会費 会員・一般・学生とも 8,000円
10. 申し込み 19ページの「参加申込詳細」を参考にお申し込みください。

○実行委員会事務局 社団法人京都社会福祉士会 大会事務局  
 〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下ル仲之町 519 京都社会福祉会館 206  
 TEL : 075-803-1574 FAX : 075-803-1574  
 E-mail : [cswkyoto@mediawars.ne.jp](mailto:cswkyoto@mediawars.ne.jp)  
 URL : <http://www.mediawars.ne.jp/~cswkyoto/cswkyoto/home.html>

○社団法人日本社会福祉士会事務局  
 TEL : 03-3355-6541 FAX : 03-3355-6543  
 E-mail : [info@jacsw.or.jp](mailto:info@jacsw.or.jp)  
 URL : <http://www.jacsw.or.jp/>

【後援】（予定・順不同）

厚生労働省、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、福祉医療機構、全国社会福祉協議会、社会福祉振興・試験センター、日本社会福祉士教育学校連盟、日本社会福祉士養成校協会、日本介護福祉士会、日本ソーシャルワーカー協会、日本医療社会事業協会、日本精神保健福祉士協会、日本介護支援専門員協会、京都府社会福祉協議会、京都市社会福祉協議会、京都府老人保健施設協会、京都府老人福祉施設協議会、京都市老人福祉施設協議会、京都府民生児童委員協議会、京都市民生児童委員連盟、京都府社会福祉施設経営者協議会、京都市社会福祉施設連絡協議会、京都母子生活支援施設協議会、京都知的障害者福祉施設協議会、京都府身体障害者団体連合会、京都市身体障害者団体連合会、京都市身体障害児者父母の会連合会、京都障害児者親の会協議会、京都精神保健福祉協会、京都精神保健福祉推進家族会連合会、京都社会就労センター協議会、京都ボランティア協会、京都府児童福祉施設連絡協議会、京都児童福祉施設実習教育連絡協議会、手をつなぐ育成会、認知症の人と家族の会京都府支部、京都ほっとはあとセンター、きょうとNPOセンター、京都府グループホーム協議会、京都社会福祉協会、京都府社会福祉事業団、京都府医師会、京都府看護協会、京都医療ソーシャルワーカー協会、京都福祉医療施設協議会、京都私立病院協会、京都精神保健福祉士協会、京都府地域包括・在宅介護支援センター協議会、京都市地域包括・在宅介護支援センター連絡協議会、京都市居宅介護事業等連絡協議会、京都弁護士会、京都司法書士会、京都府介護福祉士会、京都府理学療法士会、京都府作業療法士会、京都府介護支援専門員会、京都府臨床心理士会、京都商工会議所、京都府商工会連合会、京都中小企業家同友会、京都共同募金会、同志社大学、佛教大学、大谷大学、花園大学、京都ノートルダム女子大学、京都光華女子大学、京都華頂大学、京都女子大学、龍谷大学、立命館大学、種智院大学、京都国際社会福祉センター、京都 YMCA 国際福祉専門学校、京都医療福祉専門学校、京都府立大学、福祉新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、京都新聞社、京都新聞社会福祉事業団、KBS 京都、αステーション、NHK 京都放送局

# 第19回 日本社会福祉士学会

## 分科会の構成

### A分科会 「生きる力を支え、まもる権利擁護の取り組み」(社会福祉士がとらえる「権利擁護」)

【会場:第3展示場】

社会福祉士が担う権利擁護の実践は、様々な生活上の困難を抱える人々の生きる力を支え、そしてまもる営みである。利用者のその人らしい暮らしを実現する権利擁護の取り組みを推進していくための課題や、そのための社会福祉士の役割について考える。

- 【発表例】
- 社会福祉士が担う権利擁護の実践における現状と課題
  - 成年後見制度や日常生活自立支援事業の活用
  - 虐待やDVなどの具体的なケースへの援助活動
  - 地域における権利擁護実践への住民参画の取り組み
  - 他職種との連携やネットワークによる権利擁護の取り組み

### B分科会 「生きる力を見出し、支える生活への理解と支援」(社会福祉士がとらえる「生活構造」)

【会場:第2展示場A】

今日の複雑化・多様化する生活問題への対応において、利用者本位の実践を担う社会福祉士には、生活者としての利用者の生きる力を見出し、それを支える営みが求められる。利用者に対する総合的・包括的な生活への理解と、その理解に基づく支援のあり方を考える。

- 【発表例】
- 複数の生活課題を抱える家族へのアプローチの実際と課題
  - 生活問題の多様化・複雑化・長期化に対応する支援のあり方
  - 低所得者・失業者等への生活理解と就労支援等の取り組み
  - 利用者主体の生活の実現を支えるケアマネジメントの実践
  - 施設における生活の場づくりとしてのレジデンシャル・ソーシャルワーク

### C分科会 「生きる力を支え、育むソーシャルワークの実践」(社会福祉士がとらえる「相談援助」)

【会場:第2展示場D】

個人と環境および両者の相互作用への視点と介入は、人々の社会生活を支援するソーシャルワークの生命線である。様々な生活課題や生活問題を抱える利用者の生きる力を社会的に支え、育むためのソーシャルワーク(相談援助)の役割や課題について考える。

- 【発表例】
- 接近困難な利用者へのソーシャルワーク実践
  - ニーズ発見から支援に至るプロセスに関する実践報告
  - 様々な施設や機関、事業所における社会福祉士の役割と機能
  - ソーシャルワークにおける就労支援や社会復帰支援
  - 社会福祉士やソーシャルワークの専門性

### D分科会 「生きる力を見守り、育む地域支援の展開」(社会福祉士がとらえる「地域支援」)

【会場:第1展示場A】

現代社会は無縁社会と言われるように、人々のつながりが希薄化している。同じ地域で暮らす人々同士のつながりは、利用者の生きる力を見守り、育む基盤である。社会的孤立を防ぎ、地域におけるつながりの維持や再構築を志向する地域支援のあり方を考える。

- 【発表例】
- 地域包括支援センターにおける社会福祉士の実践
  - 地域における事業所間のネットワーク形成の課題
  - 住民参加の促進と地域福祉の推進のための課題
  - 孤独死や社会的孤立を防ぐための実践や課題
  - 地域における社会資源の活用や新たな開発に向けて

### E分科会 「生きる力を育む実践を支え、導くためのマネジメント」(社会福祉士がとらえる「福祉経営」)

【会場:第1展示場B】

利用者の生きる力を育む実践を行うためには、社会福祉関係施設や機関、事業所のマネジメントが問われるのは言うまでもない。利用者への質の高いサービス提供とともに、社会福祉士が確かな実践力を磨き、発揮するための福祉経営のあり方について考える。

- 【発表例】
- 今日における各種法人や施設、機関、事業所等の経営の課題

- 職場における業務改善やスーパービジョンの現状と課題
- 人材育成のための研修体制(職場内研修、職場外研修)に関する課題
- 苦情対応やリスクマネジメントに関する取り組み
- 社会福祉に関する様々な活動を行う NPO 法人の経営や課題

## F分科会 「これからのソーシャルワークの指針となる実践研究」(社会福祉士がとらえる「実践研究」)

【会場:日図デザイン博物館1】

社会福祉士の専門性は、自らの社会福祉士としての日々の実践を振り返り、より良い支援のあり方を探求する実践研究を通して、維持され、向上していくと考える。様々な分野における社会福祉士の実践の検証から、これからのソーシャルワークのあり方を考える。

- 発表例**
- 各施設や機関、事業所における社会福祉士の実践報告
  - 医療・司法・教育・労働等の分野における社会福祉士の活動の実際
  - 社会福祉士制度や養成カリキュラムにおける課題
  - 社会福祉士養成教育における実習や演習における取り組み
  - 独立型社会福祉士によるソーシャルワーク実践

## G分科会:「自主企画シンポジウム」

【会場:特別展示場】

会員の自主的な企画によるシンポジウムを分科会として設けています。社会福祉士の実践に関する内容であればテーマや形式は問いません。社会福祉士養成における現場と養成校との連携、地域における職種間の支援ネットワークのあり方、支部やグループでの継続的な研修・研究の実践など、参加者と共有・討議したいテーマでのシンポジウムの企画を期待します。なお、他の分科会発表と申込要領が異なる部分がありますので、ご注意ください。

## H分科会: 京都特別分科会

【会場:日図デザイン博物館2】

「これからのソーシャルワークの話をしよう ～若者のまち・京都からの発信～」

「社会福祉士」の仕事は多くの魅力ややりがいがある一方で、様々な悩みや葛藤を伴う仕事でもあるため、残念なことに、せっかく福祉職に就いたにもかかわらず、入職後数年経たずして辞めてしまう若い職員も少なくない。その背景には、仕事に対する悩みや、孤立した状況、サポート体制の乏しさ等が考えられる。また、理想と現実とのギャップ、賃金の低さ等への戸惑いを抱える者もいるであろう。

しかし、このような悩みやしんどさを抱えながらも、目の前にいる利用者と向き合い、生活の安定を支援するために、しっかりとかがわり続けている若い社会福祉士は多くいる。

京都は、大学や専門学校が多く、若者の活気やエネルギーにあふれている。福祉の仕事を目指す学生、また現在従事している若者も多く、福祉に携わる若いマンパワーが豊かなまちである。

本分科会は、これからの福祉現場を担う若手の社会福祉士数名から、日頃仕事をする上での魅力や楽しさ、悩みや葛藤を発表してもらうとともに、分科会の参加者も日頃の悩みや思っている事を自由に話す事のできるフロア参加型の分科会を目指す。全国の若い社会福祉士の方々とともに、これからのソーシャルワークのあり方や社会福祉士像について語り合いたい。そして、ここでの仲間との出会い・語らいが、参加者一人ひとりの明日からの仕事へのエネルギーとなるような場としたい。

## I分科会: 海外研修等報告会

【会場:工芸実技室】

前半は、(財)社会福祉振興・試験センター主催の「社会福祉士・精神保健福祉士海外研修・調査」の2010年度派遣者のうち、社会福祉士として派遣された者による海外での社会福祉実践についての報告を行う。後半は、国際委員会企画として、昨年に引き続き「海外のソーシャルワーカー資格」と題したシンポジウムを開催し、ソーシャルワーク資格制度のあり方を切り口に北欧を中心とした海外におけるソーシャルワーカー養成のあり方を把握するとともに、日本における社会福祉士資格のあり方を考える機会とする。